

問1 地熱発電は、太陽光発電や風力発電といった他の再生可能エネルギーと比較して、エネルギー源としてどのような利点があると考えられますか。その理由を含めた説明として最も適切なものを選びなさい。(2026年 和歌山公立入試 類似)

- |  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 1. 天候や昼夜を問わず、火山活動による地下の熱源から常に安定して発電を続けることができる点 | 2. ダムを建設して水を蓄えることで、電力需要の変化に応じて瞬時に発電量を調整できる点 | 3. 二酸化炭素を全く排出せず、放射性廃棄物の処理も必要ないため、環境への負荷が最も低い点 | 4. 燃料となる石炭や液化天然ガス(LNG)を安価に輸入できるため、発電コストを低く抑えられる点 |
|--|---|---|--|

問2 高知県や宮崎県では、冬季でも温暖な気候とビニールハウスなどの施設を利用することで、ピーマンやナスなどの作物を本来の時期よりも早く栽培・収穫して出荷しています。このような栽培方法を何といいますか。(2020年 大分県公立入試 類似)

- |         |         |         |        |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 促成栽培 | 2. 抑制栽培 | 3. 露地栽培 | 4. 二毛作 |
|---------|---------|---------|--------|

問3 日清戦争の賠償金を資金の一部として官営の製鉄所が建設され、日本の重化学工業を支えた地域がある。現在、この地域を含む県では、北九州市を中心に環境産業を集積させたエコタウンが形成されている。この県として最も適切なものはどれか。(2017年 北海道公立入試 類似)

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 福岡県 | 2. 山口県 | 3. 長崎県 | 4. 広島県 |
|--------|--------|--------|--------|

問4 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものととして適切なものはどれですか。(2020年 静岡公立入試 類似)

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 1. 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。 | 2. 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。 | 3. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。 | 4. 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。 |
|---|--|--|---|

問5 火山の噴火による降灰の広がり方が季節によって異なる地域において、8月には火口から北西方向の市街地側に、2月には南東方向の海側に多く灰が降る現象が見られます。この背景にある「季節風」と降灰の関係について、正しい記述を選びなさい。(2020年 群馬県公立入試 類似)

- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 1. 夏は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる | 2. 冬は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の南東側に運ばれやすくなる | 3. 夏は北西からの季節風が吹くため、火山灰が火口の南東側に運ばれやすくなる | 4. 冬は北西からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる |
|--|--|--|--|

問6 鹿児島県では農業産出額が全国トップクラスであるとともに、製造品出荷額の第1位を「食料品」が占めています。このように、鹿児島県の工業において食料品工業の割合が高い理由として最も適切な説明はどれですか。(2016年 山形県公立入試 類似)

- |  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 1. 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工して付加価値を高める産業が発達しているため。 | 2. 広大な平野を利用した稲作が中心であり、余った米を酒類や菓子類に加工して大都市圏へ大量に輸送する体制が整っているため。 | 3. 高速道路沿いに半導体工場などの先端技術産業が集積したことで、そこで働く労働者向けの冷凍食品製造が急増したため。 | 4. 大規模な港湾施設を活かして海外から安価な穀物を輸入し、臨海部のコンビナートで加工してから全国に配分しているため。 |
|--|---|--|---|

問7 沖縄県のある水産物の収穫量の割合について、うるま市が31%、南城市が25%と、この2つの市で県全体の過半数を占めているものがあります。サンゴ礁に囲まれた穏やかな浅瀬を利用して養殖される、この特産品の名前を答えなさい。(2018年 沖縄公立入試 類似)

- |        |         |          |       |
|--------|---------|----------|-------|
| 1. モズク | 2. 海ぶどう | 3. クルマエビ | 4. 昆布 |
|--------|---------|----------|-------|

問8 福岡県の北九州港における産業や物流の特色について述べた文として、近年の状況を正しく説明しているものはどれですか。(2017年 東京都公立入試 類似)

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 1. 韓国などとの間に国際フェリー航路があり、半導体や家庭用電気製品などの高付加価値製品の製造・輸出に移行している。 | 2. 日本最大の自動車輸出拠点としての役割を担っており、輸出額の大部分を乗用車が占めている。 | 3. 周辺の豊富な水資源と森林資源を利用した製紙業が発達し、紙・板紙が主要な輸出材料となっている。 | 4. 内陸工業地域と直結した航空輸送の拠点であり、電子機器のほか航空機類の輸出が大きな割合を占めている。 |
|--|--|---|--|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 天候や昼夜を問わず、火山活動による地下の熱源から常に安定して発電を続けることができる点	太陽光発電は晴天時や日中に限られ、風力発電は風の強さに左右されますが、地熱発電は地下の熱を利用するため、自然条件の変化を受けにくいという特徴があります。このため、年間を通じて安定した電力を供給できる「ベースロード電源」としての役割が期待されています。
問2	<b>答え 1</b> 促成栽培	宮崎県や高知県などの黒潮の影響を受ける温暖な地域では、冬でも暖かい気候を活かし、ビニールハウスなどの施設を用いて成長を早める栽培が行われています。これにより、他の地域での生産が少ない冬から春にかけて農作物を出荷でき、市場で高い価格で販売することが可能になります。
問3	<b>答え 1</b> 福岡県	1901年に操業を開始した官営八幡製鉄所は、現在の福岡県北九州市に建設された。この地域は北九州工業地帯として発展したが、現在は公害克服の経験を生かし、リサイクル工場などを集めたエコタウン事業が進められている。山口県や長崎県も近隣で工業が盛んだが、八幡製鉄所と北九州市のエコタウンという組み合わせは福岡県の特徴である。
問4	<b>答え 1</b> 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。	シラス台地を構成する火砕流堆積物は粒が粗く、隙間が多いため、雨が降ってもすぐに地下へ浸透してしまう「水はけが良すぎる」という性質があります。そのため、常に水を張る必要がある水田には不向きであり、乾燥に強いサツマイモや、広大な土地を利用した豚・鶏・牛などの畜産業が発展しました。
問5	<b>答え 1</b> 夏は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる	季節風（モンスーン）は、夏は海洋から大陸に向かって（南東から北西へ）、冬は大陸から海洋に向かって（北西から南東へ）吹くという性質があります。この風向きの影響で、火口から放出された火山灰は、夏には北西に位置する市街地へ運ばれ、冬には南東方向の海側へと流されることになります。この気候特性は、その地域の生活や防災対策に大きな影響を与えています。
問6	<b>答え 1</b> 県内で盛んな畜産業や畑作によって生産された農畜産物を原料とし、それらを加工作して付加価値を高める産業が発達しているため。	鹿児島県は、シラス台地の特性を活かした肉用牛、豚、鶏などの畜産業が日本屈指の規模を誇ります。これらの地元の農産物を原料として、精肉加工や缶詰、焼酎、菓子などの「食料品」へと加工する工業が地域に根付いているため、農業と工業が密接に関係しながら産業構造を形作っています。
問7	<b>答え 1</b> モズク	うるま市や南城市の沿岸部では、海藻の一種であるモズクの養殖が非常に盛んです。沖縄県は全国のモズク生産量の約9割を占める日本一の産地であり、地域調査においても重要な指標となります。なお、選択肢にある昆布は主に北海道などの寒冷な海域で育つものであり、沖縄県内では生産されていませんが、食文化としては深く根付いているという背景があります。
問8	<b>答え 1</b> 韓国などとの間に国際フェリー航路があり、半導体や家庭用電気製品などの高付加価値製品の製造・輸出に移行している。	北九州港は地理的に大陸に近い利点を活かし、大韓民国（韓国）などとの間に国際フェリー航路を運航させており、東アジアとの結びつきが非常に強いのが特徴です。かつての鉄鋼業中心から、高度な技術を要する半導体や医療機器などの生産へとシフトしており、地理的条件を活かした物流と先端産業の融合が進んでいます。他の選択肢は、名古屋港（自動車）、富士港（製紙）、成田空港（航空機類など）の特徴を記述したものです。